

令和元年度 第2回 新潟市立白根図書館協議会 議事概要

日 時： 令和元年12月9日（月） 午後2時～3時30分

場 所： 白根学習館2階 ルーム2

出席者： 新潟市立白根図書館協議会 川内会長、藤村副会長、小柳委員、関根委員、
田沢委員、星野委員
事務局 松田白根図書館館長、伊藤主任、本間主査、佐久間主査

1 開会

2 館長あいさつ

3 議事

(1) 平成30年度決算報告について

(2) 図書館評価について

(事務局) 案件概要説明

(事務局) 案件概要説明

(藤村副会長) 図書館評価の目標値は前年度より高く設定するものなのか。地域の状況なども考えて実施可能な水準で設定するなど検討したらどうか。

(川内会長) 児童数も減少しているので、前年を上回るのには厳しいのでは。それに合わせて目標値を考えたらどうか。

また、児童に白根図書館の場所を聞いても知らないことが多い。そこが課題だと感じる。例えば保育園や小学校を対象とした見学ツアーなどを計画して、図書館へ来る何らかの機会をつくるなどして周知する必要があると思う。

(関根委員) 財政状況も厳しく、少ないマンパワーの中努力していると思うが現在の状況に基づいた目標だけでなく、将来を見越した目標も必要だと思う。

(藤村副会長) ボランティアというと、図書館が助けてもらおうと考えがちだが、逆に活動の場所を提供するサービスと捉えたらどうか。活動する場所を与えてもらえることをうれしいと思う人も多いのでは。

(3) 令和元年度事業中間報告について

(藤村副会長) 一番期待するのは、子ども読書活動の推進。ブックスタートに特に期待したい。新潟市では歯科検診と一緒にっておりメリットも

あると思うが、ブックスタート単独で行った方が効果があるかもしれない。どこかで試すことができるとよいと思う。

また保護者への働きかけとして「家読（うちどく）」などを行っているが、中学生・高校生に小さい時の読み聞かせの思い出を、今子育てをしている親に伝えてもらうのはどうだろうか。幼いときの経験がこんなに深く心に残るのかと最近感じた。

(小柳委員) 若いお母さんにはロコミが必要。「図書館がいい」ということを伝わるようにして欲しい。

(田沢委員) 味方ひまわりクラブでは、毎日おやつ時間の前に絵本を読んでいる。だんだん定着してきて、子どもたちが楽しみにするようになってきた。また、自分で本を読む時間も取るようにしている。ひまわりクラブでは子どもたちに何かできるかということをいつも考えている。

(川内委員) 学校以外で本を読んでいる子どもの割合はとても低い。ひまわりクラブで読む環境があるのはとてもよい。高学年でも字の多いものは読めない児童がいる。読む時間と場所を提供することは大切だと思う。

(星野委員) 今の子どもたちは毎日習い事などで忙しいようだが、話題になっている本は学校図書館などでチェックしているようだ。

4 その他

(事務局) 協議会委員から図書館に何かご意見などあったら教えてほしい。

(小柳委員) 図書館内にもっと学生専用スペースあるとよいのでは。

(関根委員) 「うちどくノート」を見たが、効果がわかりづらい。こんなよいことがあったということをPRしてみたらどうか。

(星野委員) 新聞で、「今の子どもには居場所がない。図書館が保健室のような場所になるとよい」というような記事を読んだことがある。図書館には、これからの中高生を救うための役割があるのではと思っている。

(田沢委員) 新潟市の図書館はとてもよいと言っているのを聞いた。せっかく素晴らしいことをしているのだから、図書館に行かない人にも伝わるようにもっと広報したらよいと思っている。

5 閉会

【事前配付資料】

- 資料1 平成30年度 南区図書館・図書室決算報告
- 資料2-1 令和元年度白根図書館事業中間報告
- 資料2-2 令和元年度月潟図書館事業中間報告
- 資料2-3 令和元年度白根図書館学校図書館支援センター中間報告

【当日配付資料】

- 資料3 図書館評価